

調査地概要

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 秋山, 陽香, 小林, 亮太 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/8065

調査地概要

1 調査概要

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コースでは、フィールドワークの手法を実際に学ぶために、毎年フィールドワーク実習を行っている。2014年度は6月8日から14日までの7日間、静岡県静岡市駿河区用宗地区に滞在し、フィールドワークをおこなった。

今回の実習には、教員3名、学生9名の計12名が参加した。用宗地区の柳家旅館に宿泊し、ここを拠点に地域の人々の生業、生活と文化、地域おこしについて調査を進めた。滞在前には、事前調査として書籍やインターネットから用宗地区の地理や歴史、人口統計などに関する資料を収集した。また、調査地と大学との距離が近いことから、滞在期間外に開催された祭りやイベントなどに参加する一日調査も実施した。これらのフィールドワークでは参与観察とインタビュー調査のほか、文献、写真、映像などの資料を収集した。

2 静岡市駿河区用宗の概要

2.1 地理と産業

用宗の人口は、2014年現在で4,562人である。面積は、用宗町内会のホームページによると4.06平方キロメートルで、用宗1丁目から用宗5丁目と用宗巴町、用宗城山町、用宗小石町の8つからなる。静岡市駿河区の最西端に位置し、北は山、南は海に臨んだ静かな住宅地である。駿河湾に面した海岸線は広い砂浜を有している。しかし、近年では激しい波により砂浜の浸食が進んでいるため、護岸堤が整備され、沖合にも多くの消波ブロックが設置されている。用宗地区の東側には、一級水系である安倍川が流れている。安倍川は、静岡県と山梨県の県境である梅ヶ島地区に端を発しており、山からの豊富な栄養を駿河湾へと運んでいる。また、用宗地区の北には標高200メートルの山々があり、頂上からは付近の街並みを一望できる。そのなかでも城山と呼ばれる山は、かつて持舟城という城砦があったことから、地域の人々に親しまれている。

安倍川の河口に近く栄養豊富な駿河湾に面していることもあって、用宗では漁業が盛んである。用宗地区の東部にある用宗漁港はシラスの水揚げ量が多く、周辺には加工販売業者も少なくない。一般に用宗は漁業の町という印象を持たれているが、かつては急峻な山の斜面を利用して果樹栽培も盛んにおこなわれていた。しかし、現在では専業農家の数は減ってきている。地域の人々が営む小規模な商店も数多く営まれている。

2.2 交通と人口

交通の便は良く、静岡の市街地から車で 20 分ほどである。JR 静岡駅からは、東海道線を下り方面へ 2 駅目で用宗駅に到着する。そのほかにも、JR 静岡駅から用宗線という路線バスが運行されている。静岡県によると、用宗駅における 1 日の平均乗員人数は、JR 東海道線の定期券利用者で 1,021 人である。用宗地区の人口からみても、用宗から他所へ通勤や通学をしている人が多いことがわかる。また、JR 静岡駅まで東海道線に乗り、そこから新幹線に乗り換えれば遠方まで通勤や通学をすることができる。

現在の用宗地区は長田南小学校区に属している。長田南小学校区には用宗地区のほかに、青木、大和田、小坂、石部、広野といった地区が含まれ、この地域の子どもたちは長田南小学校と城山中学校に通う。また、用宗地区には用宗保育園とひばり幼稚園という 2 つの保育施設がある。このように教育機関が整備されているが、静岡市の住民基本台帳データによると、用宗地区では少子高齢化が進んでいる（表 1）。用宗地区の 15 歳未満の人口は 2008 年に 532 人であったが、2014 年には 492 人となり、40 人減少している。一方、65 歳以上の人口は 2008 年に 1,356 人であったが、2014 年には 1,485 人となり、129 人増加している。また、2014 年現在の高齢化率は 32.3 パーセントに及び、静岡市全体の高齢化率 26.9 パーセントより、5.4 パーセント高い数値となっている。

3 歴史と行政区画の変遷¹

現在の「用宗」という表記は、少なくとも 16 世紀には使われており、当時は「用宗郷」と呼ばれていた。また、現在の用宗城山町に建立した城は「持船（持舟）城」と呼ばれ、郷名と城の名前の漢字を使い分けていた。しかし 1579（天正 7）年、この城が廃城となったため、使い分ける者が少なくなった。たとえば、駿河城一加番松平縫殿守定常の巡見日記である「駿河めぐり」のなかに「用宗村 俗には持船と云ふ」という記述があり、「持船」が「用宗」の俗称となったことがうかがえる。そして、江戸時代の古文書には「用宗村」に統一されており、正式な表記として固定していった。

江戸時代、用宗村は徳川幕府の直轄地として成立しており、雄藩や外様大名など、他からの支配を受けなかった。しかし、幕藩体制の崩壊が間近となった 1862（文久 2）年から 1864（元治元）年までの期間は、領主の松平和泉守による采地となった。その後 1865（慶応元）年から明治維新まで、再び幕府の直轄地として機能した。

1871（明治 4）年の廃藩置県によって静岡藩は静岡県となり、1878（明治 11）年 7 月の郡区町村編成法により、用宗村は広野村、青木村、大和田新田、石部村、小坂村、上川原

¹ 本節の記述は、以下の文献にもとづいている（安本編 1971；静岡県総務部合併推進室・静岡市町村振興協会 2010）。

新田、東新田、下川原新田とともに、有度郡に吸収された。同年12月には、広野村に戸長役場が置かれた。その後、1889（明治22）年4月の市制・村町制が施行され、用宗村は広野村のほか8つの村とともに長田村に合併された。この際、用宗村から用宗区に変わり、自治組織の代表として区長制を施行した。さらに1896（明治29）年4月、郡の名称、境界が変更されると同時に、長田村は安倍郡長田村となった。1934（昭和9）年10月になると、安倍郡長田村のほか、千代田村、麻機村、大谷村の4つの村が静岡市に合併された。

昭和期の用宗地区の動きとしては、1937（昭和12）年に用宗区が用宗町に変わり、自治組織もそれまでの区長制から総代制になった。そして、1941（昭和16）年の太平洋戦争時に総代制から町内会制に変わった。さらに、同年から1953（昭和28）年までの期間は代表制をとっており、その後から現在までは町内会制となっている。

平成に入ってから、2003（平成15）年4月には静岡市が旧清水市と合併して、新静岡市が誕生した。さらに、2005（平成17）年に区制の施行により、用宗地区は駿河区に区分され、現在に至る。

参考文献

静岡県

- 2013 「鉄道運輸状況（平成23年度）」静岡県公式ホームページ（2014年10月30日取得、http://toukei.pref.shizuoka.jp/toukeikikakuhan/data/10-050/documents/11_06tetudou.xls）

静岡県総務部合併推進室・静岡州市町村振興協会

- 2010 「静岡州市町村の変遷」静岡県公式ホームページ（2014年11月10日取得、[https://www2.pref.shizuoka.jp/all/file_download1010.nsf/0ED93D3024AFDA044925735500824995/\\$FILE/historyofcities.pdf](https://www2.pref.shizuoka.jp/all/file_download1010.nsf/0ED93D3024AFDA044925735500824995/$FILE/historyofcities.pdf)）。

静岡市

- 2014a 「町名別人口の推移」静岡市（2014年11月4日取得、<http://www.city.shizuoka.jp/000671006.xls>）。
- 2014b 「静岡市の人口・世帯（住民基本台帳の過去データ）」（2014年11月4日取得、http://www.city.shizuoka.jp/deps/kikaku/tokei_hp-jinkou_jyuki_j-data.html）。

用宗町内会

- 2014 「用宗紹介」用宗町内会ホームページ（2014年10月30日取得、<http://www4.tokai.or.jp/mochimune/syokai.html>）。

安本博編

- 1971 『用宗町誌』用宗町誌編集委員会。

表 1 用宗における人口の推移

年	人口	15歳未満	15歳～64歳	65歳以上	世帯数	高齢化率
26.3.31 (2014)	4,600	492	2,623	1,485	1,998	32.30%
20.3.31 (2008)	4,799	532	2,911	13,526	1,915	28.30%
差	-199	-40	-268	129	83	4.00%

出典：静岡市の人口・世帯（住民基本台帳の過去データ）より小林作成

地図 1 静岡県図



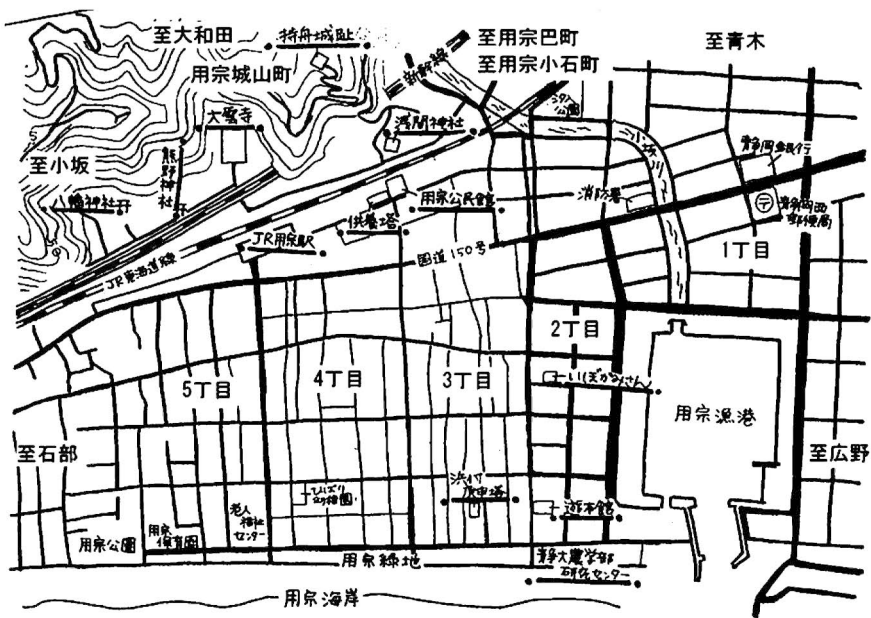
Mapion (<http://www.mapion.co.jp/>, 2014年11月10日取得) を元に渡邊作成

地図2 用宗地区周辺図



Mapion (<http://www.mapion.co.jp/> 2014年11月10日取得)を元に渡邊作成

地図3 用宗地区詳細図



用宗町内会ホームページ²掲載の「もちむねマップ」に町丁名を加筆して秋山作成

² <http://www.4.tokai.or.jp/mochimune/>、2014年10月6日取得。